この印刷物は再生紙を使用しています。

淀川水系流域委員会 琵琶湖部会ニュース No.14
2002年7月発行
【編集・発行】淀川水系流域委員会
【連　絡　先】淀川水系流域委員会　庶務
株式会社 三菱総合研究所 関西研究センター
研 究 員：新田、柴崎、桐畑
事務担当：桐山、森永、北林

〒530-0003 大阪市北区堂島２-２-２（近鉄堂島ビル７Ｆ）
TEL:（06）6341-5983 FAX:（06）6341-5984
E-mail：k-kim@mri.co.jp
●流域委員会ホームページアドレス
http://www.yodoriver.org

◆ニュースレターは以下の機関でも配布しています。
国土交通省　近畿地方整備局／淀川工事事務所／琵琶湖工事事務所／大戸川ダム工事事務所／淀川ダム統合管理事務所／猪名川工事事務所／猪名川総合開発工事事務所／木津川上流工事事務所／水資源開発公団　関西支社／滋賀県　土木交通部河港課／京都府　土木建築部河川課／大阪府　土木部河川室／兵庫県土木部河川課／奈良県　土木部河川課／三重県　伊賀県民局 等

＊ニュースレターは最新号、バックナンバーともに、ホームページでもご覧頂けます。

No.14 2002年7月発行

平成14年6月4日（火）、
第14回琵琶湖部会（現地視察等）が行われました。

【鷲見集落跡にて】

【ホテルプリオールにて】

淀川水系流域委員会
琵琶湖部会ニュース

http://www.yodoriver.org

CONTENTS

●第14回琵琶湖部会の内容……P.1
●これまで開催された委員会および部会等について……P.10
◇当日資料の閲覧・入手方法……P.11

第14回琵琶湖部会 委員リスト

2002.6.4現在
（五十音順、敬称略）

№	氏名	対象分野	所　属　等	備考(兼任)
1	井上　良夫	地域の特性に詳しい委員(水辺の遊び)	ＢＳＣウォータースポーツセンター校長	-
2	江頭　進治（部会長代理）	河道変動	立命館大学理工学部　教授	委員会
3	嘉田　由紀子	地域・まちづくり(環境社会学、文化人類学、住民参加論)	京都精華大学　教授 滋賀県立琵琶湖博物館　研究顧問	委員会
4	川那部　浩哉（部会長）	生態系	京都大学　名誉教授 滋賀県立琵琶湖博物館　館長	委員会
5	川端　善一郎	生態系	京都大学生態学研究センター　教授	-
6	倉田　亨	農林漁業	近畿大学　名誉教授	委員会
7	小林　圭介	植物(植物社会学)	滋賀県立大学　名誉教授、 永源寺町教育委員会　教育長	-
8	宗宮　功	水質(水質工学)	京都大学　名誉教授、 龍谷大学　教授	委員会
9	寺川　庄蔵	地域の特性に詳しい委員(自然・環境問題全般)	びわ湖自然環境ネットワーク　代表	委員会
10	中村　正久	水環境(環境政策、環境システム工学)	滋賀県琵琶湖研究所　所長	委員会
11	西野　麻知子	動物(陸水動物学)	滋賀県琵琶湖研究所　総括研究員	-
12	仁連　孝昭	経済	滋賀県立大学環境科学部　教授	-
13	藤井　絢子	地域の特性に詳しい委員	滋賀県環境生活協同組合　理事長	-
14	松岡　正富	地域の特性に詳しい委員	滋賀県漁業青年部　理事、 朝日漁業協同組合　代表監事	-
15	水山　高久	治山・砂防	京都大学大学院農学研究科　教授	委員会
16	三田村　緒佐武	環境教育(水環境教育、生物地球化学)	滋賀県立大学環境科学部　教授	委員会
17	村上　悟	地域の特性に詳しい委員(鳥類生態、ラムサール条約)	琵琶湖ラムサール研究会　代表	-

注:対象分野欄の(　)は委員の専門を示しています。

第14回琵琶湖部会の内容

◆ 開催日時：平成14年6月4日(火)　9：30～18：00

第14回琵琶湖部会では、丹生ダムの建設が予定されている高時川流域の視察および現地の方との対話等が行われました。当日午前は、ご意見をお伺いする会が行われ、現地の自然に詳しい方や丹生ダムの計画によって住居を移転された元住民の方々からお話を伺いました。

午後は高時川流域の現地視察が行われ、その後夕方には、地元の方等との意見交換と、中間とりまとめに対する河川管理者からの質問への対応や今後の部会の進め方についての議論が行われました。

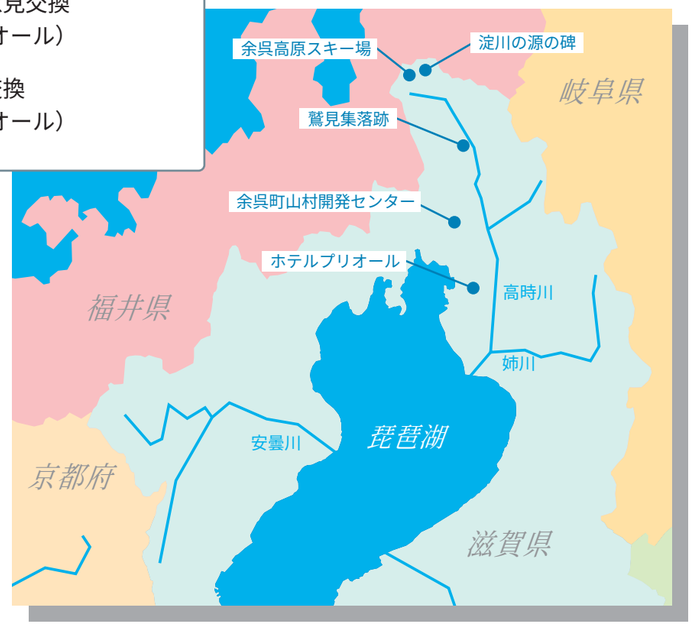
当日のプログラム

①ご意見をお伺いする会
（於：余呉町山村開発センター）

②現地視察
（鷲見集落跡→
淀川の源の碑、余呉高原スキー場）

③地元の方等との意見交換
（於：ホテルプリオール）

④委員による意見交換
（於：ホテルプリオール）



① ご意見をお伺いする会の概要

12名の委員が出席し、余呉町にてご意見をお伺いする会が開催されました。まず、河川管理者より丹生ダムについて説明が行われ、その後、現地の自然に詳しい方、琵琶湖の水と暮らしに詳しい方、丹生ダム計画によって移転された住民の方々のお話を伺いました。

■説明及び質疑応答

①河川管理者（水資源開発公団）からの説明

・丹生ダム建設事業の目的、水資源開発公団事業実施の手順について説明が行われた。

・丹生ダム事業の経緯として、地元との協力関係、生活再建関係、水源地域の整備について説明が行われた。

意見交換

委員：クマタカの営巣地の放棄、工事濁水による漁業への影響等々、ダム計画によって負の影響が生じている。こういったことも、きっちりと説明して頂きたい。

水資源開発公団：クマタカについては９月頃に報告したい。また、道路工事による濁水については沈殿池等によって対応している。今後、情報を提供していきたいと思っている。

部会長：これからは、過去のデータ等について、より具体的なものを出して頂きたい。例えば、「濁水がなぜ発生してその時どのような対応したのか」、或いは「仮にあることが発生した場合にどう対応するのか」といった具体的な情報を提供して頂きたい。

委員：ダムと地元とのこれまでの経緯や、地域振興にとってダムが必要だということも理解できるが、ダム以外の方法があるかもしれない。世紀単位で環境を考えていかなければならない今、社会全体で受け入れていくことができるなら、そのためにきちんと議論していかなければならない。

②高時川流域の自然についてのお話

・高時川源流には、ワシタカやツキノワグマが生息している手つかずの自然が残されており、動植物が健全な状態で生息している数少ない地域となっている。

・この自然を残すためには、今のまま、何もしなければ大丈夫だと思う。丹生ダムの湛水地域とは離れているので、ダムの直接の影響はないと考えられるが、ひとつ心配なことは、余呉高原スキー場の工事によって、これが破壊されるかもしれない。

淀川水系流域委員会
琵琶湖部会ニュース No.14

③暮らしと水とのかかわりについてのお話

・かつて、川の水をすくって飲み、川の水を使って風呂に入っていた。川の水を大事に使っていた昔は、上流の者は下流に住む人のために排水にも気を遣っていた。蛇口をひねれば水が出てくる、お湯が出てくる便利な時代になり、そういった水文化が失われてしまった。

・子供たちは「川は危険だから、近寄ってはならない」と言われ、川からどんどん遠ざかっている。これからは「水に親しむ」ということを子供たちに伝えていかなければならない。

④丹生ダム計画による移転住民の方々のお話

・冬期の生活の厳しさ、度重なる洪水、生業（なりわい）だった木炭の需要の減少、若者の都会への流出等々、非常に厳しい生活を強いられてきた。そこにダム計画が持ち上がり、国の要請に従う形で故郷を捨て移転することを決めた。しかし、やはり「犠牲」になったという気持ちは捨てきれない。

・この流域委員会では「ダムは不要」といった論調が強いそうだが、ダム計画によって移転した私たちの気持ちを反映した議論をお願いしたい。

•¡•à–¾‹y,ÑŽ¿‹^‰ž“š

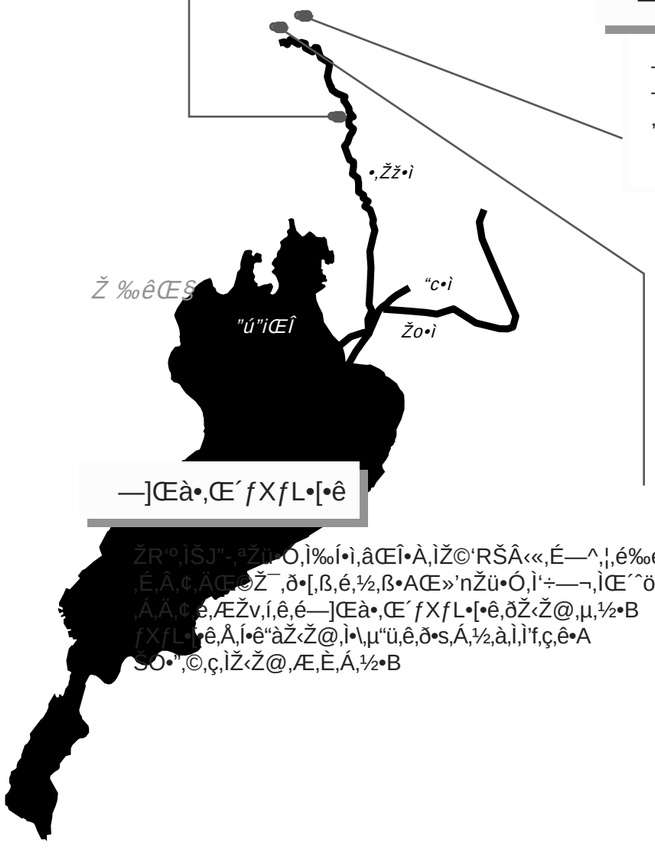
˜hŒ©•W—Ž•Õ

˜hŒ©•W—Ž•Õ,Í•A’O•¶ƒ_ƒ€,ÌŒv‰æ,É,æ,Á,Ä•…–v,·,é,±,Æ,É,È,Á
,Ä,¢,é’nˆæ,É, ,é•B
Œ»’n,Å,Í•A‰Í•ÌŠÇ—•ŽÒ,æ,è’O•¶ƒ_ƒ€Œv‰æ,É”º,¤•…–v‹K–Í“™,É
,Â,¢,Ä•à–¾,ðŽó,¯,é,Æ,Æ,à,É•Aƒ_ƒ€ƒTƒCƒgŽü•Ó,ÉŽc,³,ê,½–L
,©,ÈŽ©‘R,â“®•A•¨“™,ðŠÏŽ@,µ,½•B
,Ü,½•AŒ³•Z–¯,Ì•û,©,ç“–Žž,Ì•é,ç,µ,Ô,è,É,Â,¢,Ä,¨˜b,¢,½,¾
,¢,½•B

•yŒ³•Z–¯,Ì•û,É,æ,é,¨˜b•z

—„•ì,ÌŒ¹,Ì”è

—]Œà•,Œ´ƒXƒL•[•ê,Ì’“ŽÔ•ê˜e,É,Í•A
—„•ì—¬ˆæ,Ì•Å–k’[,ðˆÓ–¡,·,é•u—„•ì
,ÌŒ¹,Ì”è•v,ª, ,é•B



—]Œà•,Œ´ƒXƒL•[•ê

ŽR‘º,ÌŠJ”-,ªŽü•Ó,Ì‰Í•ì,âŒÎ•À,ÌŽ©‘RŠÂ‹«,É—^,¦,é‰e‹¿
,É,Â,¢,ÄŒ©Ž¯,ð•[,ß,é,½,ß•AŒ»’nŽü•Ó,Ì‘÷—¬,ÌŒ´ˆö,É,È
,Á,Ä,¢,é,ÆŽv,í,ê,é—]Œà•,Œ´ƒXƒL•[•ê,ðŽ‹Ž@,µ,½•B
ƒXƒL•[•ê,Å,Í•ê“àŽ‹Ž@,Ì•\,µ“ü,ê,ð•s,Á,½,à,Ì,Ì’f,ç,ê•A
ŠÔ•”,©,ç,ÌŽ‹Ž@,Æ,È,Á,½•B